

(特別寄稿) 眼に見えないモノ (Special Contribution) Invisible Things

日江井榮二郎
HIEI Eijiro

人間の眼は、紫外線や赤外線で光るモノは、視感度が無いので見えません。しかし、視感度はあっても見えないモノもあります。例えば皆既日食になると見えてくる太陽コロナです。煌々と輝く太陽の周りに在るコロナは、普段は日中の空が明るすぎて見えない。しかしX線を使えばコロナは見えてくる。微小な電子や原子は小さすぎて見えない。しかし、空気中の酸素分子を取り入れて我々は生き続けています。私どもの持っている視・聴・嗅・味・触の五感はその外部の情報を受ける能力に限界があるために、その存在に気が付かない。したがって五感に感じなくても存在するモノを認めざるを得ません。それでは第六感で感ずるモノは存在するのでしょうか。

そもそも第六感とは何か。広辞苑（昭和四十一年版）で調べると、「五官のほかにあるとされる感覚」とそっけなく書かれています。金田一晴彦編の現代新国語辞典（一九九四年版）では「五感以外の六番めの感覚の意で、理屈では説明ができないが、物事の本質を鋭く感じとる心の働き、直感」とあります。

東北地方の巫女や沖縄のノロ（祝女）とかユタの方々の靈感の話も聞きます。直感なり、靈感なりのような眼に見えない何かはこの世に存在するのでしょうか。

平成の市町村大合併という流れの中で宮古島も2005年10月に市制がひかれることになり、同時に宮古島市の将来のあるべき姿に向けての議論が起きました。2006年宗方先生は、宮古島の文化的活動にむけて、マティダ市民劇場で講演をされました。その時、私も宮古島に連れて行って下さり、宮古島中央公民館で天文の話をしました。その講演が終わった時、ユタという女性を紹介されました。「宮古島の東に大神島という神聖な島があります。そこからの日の出は素晴らしいです」と言われました。そのあくる日、宮古島の北の方にある劇場で宗方先生らは能の公演をされました。その帰り、島尻のマングローブ林の入り口で、昨日のユタの方が私を待っているかのような出会いがありました。そして、あなたは今回1回限りではなく、また何度も来ますよと告げられました。その後ユタさんの言われる通り、数年にわたって5回ほど宮古島の小・中学校を訪れ、天文の話をしました。コロナ禍が無ければさらに訪れた筈でした。ユタさんの予言は不思議でした。世の中には眼には見えない何かが存在しているのかと不思議に思いました。

道元の言として「自己をはこびて万法を修証するを迷いとす、万法すすみて自己を修証するはさとりなり」とあり、朝永振一郎先生の“物理学とは何だろうか”という著書のなかに「一

生懸命に研究をしていると、やがて天の女神がチラを真実を見せてくれる」と書かれています。道元の「さとり」や、朝永先生の「見せてくれる」というのは天啓なのでしょうか。

直感といい、靈感といい、啓示といい、何か眼には見えないモノがあるような話を聞いたり、経験をすると、そのような見えないモノがあるような気がしてきます。

不思議なコト・モノは何も地球上だけではなく、宇宙は不思議なコト・モノがあふれています。これらの不思議なコト・モノを知りたい、理解したいと天文屋はより口径の大きい望遠鏡を欲しがります。現在 TMT (Thirty Meter Telescope) という口径 30 m という大望遠鏡計画が進められています。口径は大きいほど、今まで見えていなかった天体の姿を見ることができるようになるからです。1917 年にアメリカ・カルフォルニアに当時世界最大の口径 100 インチの天体望遠鏡が完成しました。これを使ってハッブルは今まで観測できなかったような暗い銀河を観測しました。その結果、銀河は遠ざかりつつあり、しかもその速さは遠い銀河ほど早いということを見つけました。宇宙は膨張をしているのだということが分かりました。もし宇宙が時間と共に遠のくのであれば、それを逆算して過去にさかのぼれば、収縮して一点のなるはずである。従って我々の宇宙は極小の一点から始まったはずであると 1946 年にガモフが唱えだし、現在ビッグバンと言われている説を発表しました。その当時宇宙は安定した定常宇宙であると多くの天文学者が考えていました。イギリスの天文学者ホイルは BBC のラジオ放送で、この説はビッグバンもの、つまり大爆発を起こして吹っ飛んでしまうと話したと言われています。その後長い間宇宙は定常であると思われていました。しかし 19 年後の 1965 年に、ビッグバンの時に放射された超高温の光が、遠い宇宙の端に残っていること（宇宙背景放射）が偶然発見されました。それ以来ビッグバン説が受け入れられています。宇宙背景放射を詳しく調べることにより、私たちの宇宙は今から 138 億年前に誕生をしたことを検証しました。さらに天文学が明らかにしたことは、現在この宇宙を支配しているのは、ダークエネルギーとダークマターであり、それが 95% を占めている。私たちの知っているモノはわずか 5% であると述べています。ダークエネルギーとダークマターは宇宙に満ちみちていますが、眼に見えない。これらの正体はなんであるかまだ分かっていません。存在を考えざるを得ないが、その本質は不明というものは、過去の科学の歴史には経験していることですが、現在不明です。

ここ数年コロナ禍のために集まって歓談する機会が制限されていましたが、それが解かれて、人と直接会って話ができることに喜びを感じているということをししばしば聞きます。私もその一人です。その喜びの中には、自覚はしないけれども、相手の方が放射する何かを感じずからではないかと思っています。仏像には光背が在りますが、光背は仏像だけではなく、皆さんも持っているのではないのでしょうか。光背はコンピューターの画面では見えません。ズームでの会話と対面での会話は大いに異なります。

人と話をしているとき、その人の本意、本心はどの程度理解可能なのか、僅か 5% しかわからないとは思いますが、もしかしたら自分の理解は僅かで、理解できない事が多いのでは

のではないかと自戒の念が起きます。いずれにせよ、この世には眼に見えるモノだけではなく、眼には見えない大切な何かが存在をしていると信じざるを得ないと思っています。

・挿し絵（版画）について

編集者注：次ページの挿し絵（版画）は、版画家大野隆司氏の作品です。掲載については、日江井先生を通じて大野氏のご了解を得ております。

【挿し絵 (版画 大野隆司・作)】

